

科目・コース（ユニット）名： 災害と人間
英語名称：Disaster and Human society

【担当責任者】松原 久

【連絡先】kyu.matubara@gmail.com

【開講年次】1 年, 【学期】前期, 【必修／選択】選択必修,

【授業形態】講義

【概要】東日本大震災・福島第一原発事故を経験し、災害が多発する時代に生きる私たちにとって、「いかに災害とうまく共生（共存）するか」を考える営みは不可欠です。そのためには、災害のメカニズムを分析する自然科学的視点とともに、災害の影響を受ける人間や社会の課題を分析する人文社会科学的な視点が重要になります。

本講義では、災害に関する人文社会科学的な視点を提示したうえで、過去の災害で実際に被災者・被災地が直面してきた課題やそこからの知見・教訓を紹介していきます。授業の後半では、私たちが災害と共生していくうえでの課題や課題解決の道筋について、受講生の皆さんと一緒に考えていきます。

【学習目標】

- ・ 災害に関する人文社会科学的な視点を習得できる。
- ・ 日本社会が災害時に直面してきた／これから直面しうる課題について理解できる。
- ・ 私たちが災害と共生していくうえでの課題や戦略について、自分なりに考察できる。

【教科書】使用しません。

【参考書】

- ・ 立木茂雄, 2016, 『災害と復興の社会学』 萌書房.
- ・ 大矢根淳・浦野正樹・田中淳・吉井博明編, 2007, 『災害社会学入門』 弘文堂.
- ・ 浦野正樹・大矢根淳・吉川忠寛編, 2007, 『復興コミュニティ論入門』 弘文堂.

【成績評価方法】

授業時のミニッツペーパー（3 点×15 回分＝45 点）と中間レポート（25 点）、最終レポート（30 点）によって評価します。出席については、規定に基づき、原則として 2/3 以上の出席が必要となります。

【学習上の注意事項】

私たちは誰しもが災害の被災者になる可能性を持っています。災害について経験したこと・見聞きしたことの振り返りも意識しながら、授業に臨んでいただければと思います。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名	備考
1	2026/4/15	水	3	(講) 災害を捉える視点① (社会現象としての災害)	松原 久	
2	2026/4/22	水	3	(講) 災害を捉える視点② (災害時の被害構造)	松原 久	
3	2026/5/13	水	3	(講) 災害を捉える視点③ (災害後の避難・復興)	松原 久	
4	2026/5/20	水	3	(講) 災害を捉える視点④ (災害対応の主体)	松原 久	
5	2026/5/27	水	3	(講) 過去の災害を知る① (関東大震災等)	松原 久	
6	2026/6/3	水	3	(講) 過去の災害を知る② (伊勢湾台風等)	松原 久	
7	2026/6/10	水	2	(講) 過去の災害を知る③ (阪神・淡路大震災等)	松原 久	
8	2026/6/10	水	3	(講) 過去の災害を知る④ (中越地震等)	松原 久	
9	2026/6/17	水	2	(講) 東日本大震災を知る① (複合災害としての課題)	松原 久	
10	2026/6/17	水	3	(講) 東日本大震災を知る② (津波被害に伴う課題)	松原 久	
11	2026/6/24	水	2	(講) 東日本大震災を知る③ (原発事故に伴う課題)	松原 久	
12	2026/6/24	水	3	(講) 災害との共生に向けて① (減災・防災)	松原 久	
13	2026/7/1	水	3	(講) 災害との共生に向けて② (災害支援)	松原 久	
14	2026/7/8	水	3	(講) 災害との共生に向けて③ (災害伝承)	松原 久	
15	2026/7/15	水	3	まとめ	松原 久	

【担当教員】

教員氏名	職	所属
松原久	非常勤講師	福島大学地域未来デザインセンター